

裏表紙

表紙

医療法人 浩治会が運営する施設

当法人では、下記の介護施設、支援事業所などを運営しております。
ご質問・ご相談などは、各施設のQRコードよりHPにお入りいただきお問い合わせいただくか、記載されているお電話番号までご連絡いただけますようお願いいたします。

- 介護老人保健施設「大今里ケアホーム」
- 居宅介護支援事業所「大今里ケアプラザセンター」
- 認知症対応型共同生活介護「グループホームゆめの里」
- 介護職員初任者研修事業所「大阪城ケア学院（今里校）」

〒537-0014 大阪府東成区大今里西2-17-16 TEL: 06-6975-3090
(グループホームゆめの里 TEL: 06-6975-3081)



大今里
ケアプラザ
センターHP

- 介護老人保健施設「大阪城ケアホーム」
- 介護職員初任者研修事業所「大阪城ケア学院」
- 居宅介護支援事業所「大阪城ケアプラザセンター」

〒536-0014 大阪府城東区鴨野西2-5-24 TEL: 06-6961-1151



大阪城
ケアプラザ
センターHP

- 介護付有料老人ホーム「大宮ケアホーム光」

〒535-0002 大阪府旭区大宮4-2-27 TEL: 06-6953-0107



大宮ケア
ホーム光HP

介護の現場を
“楽しく”照らす
広報誌
2024 Autumn

Delight

Vol.1

特集

日々の リハビリ風景



KOCHIKAI

P.1

P.2

**巻頭
インタビュー**

これからは、家族様と「チーム」になって進める リハビリがさらに求められるでしょう

浩治会の法人設立30周年を記念して随刊された広報誌「Delight」。
毎号、現場での取り組みや現場スタッフの声を凝縮して、介護施設のさまざまな側面を発信してまいります。
随刊号のテーマは「リハビリ」。介護施設で約30年リハビリに携わられてきた
理学療法士の上田朋子さんに、高齢者リハビリの現状や今後求められる役割などについてお話をしました。



理学療法士 /
大宮ケアホーム、リハビリ課長
上田 朋子

リハビリがプロとして大切にしていくことは「この人の言うことをやってみよう」と思っている経験者から学ぶと、その人の心も動きやすくなる。その気持ちで取り組むことが大切だと思っています。




在宅復帰施設としての役割へ

これまでの介護老人保健施設（老健）は、リハビリ施設でも「生活の場」でもありました。そのため、利用者様の意向に沿いつつ、施設内の「生活目標」に向けた訓練やケアなどを中心としたリハビリを行ってまいりました。
ただ、2017年に理学療法士が在宅復帰施設としての役割を持つようになったことで、利用者様の在宅復帰を目指すことが、老健において重要な役割となりました。
そうした現状のもと、私たちがリハビリ職員は在宅復帰に向け、より専門的な訓練を提案・実行しよう、従来の介護職員との連携を今まで以上に重視してリハビリに取り組みたいです。

※本誌では撮影時のマスクを外しての姿を、適宜は必ずマスクを着用して公開しています。

家族様にとっても大きな決断に

退院という観点では、家族様とのつながりも不可欠です。なぜなら、在宅復帰は、受け入れる家族様にとっても大きな決断だからです。家族様とのコミュニケーションを意識的に増やし、リハビリの進め方などをチームで話し合うことが大切です。
そして、自分自身も在宅復帰のために家族様にお話ししたいのは、利用者様に「施設はどう？」など聞いていただき、もし不安などを抱かれていたら介護職員に相談したいなというところです。
浩治会のリハビリ支援チームとなり、取り組み、サポートすることを今後さらに重視してまいります。

特集 日々のリハビリ風景

SCENE 1

奥様が待つご自宅への
在宅復帰を叶えた
階段昇降リハビリ



階段昇降とは、自宅や解所を想定して、階段を昇ったり降りたりするリハビリです。まずは、役者の軽い階段には補助階段を一足、あるいは二足一歩で昇降することを繰り返して、徐々に昇降できるように。通常の階段に移行します。
階段昇降は負荷の高い運動でもあるため、全課が連携しながら取り組んでいます。





Voice

お気持ちに寄り添いながら、無理のないリハビリを心がけました。実は、S様の内服薬も、薬師のアドバイスがあったことで、心身のケアも行う作業療法士として、多面的なアプローチでサポート。そのおかげで、自宅でのリハビリも進みました。

施設へのリハビリでは、専任の理学療法士のアドバイスに加え、看護師や介護士の協力なども取り入れるよう配慮していただきました。今回のリハビリで在宅復帰を成すことができました。

山中 健吾
作業療法士 /
大宮ケアホーム

P.3

P.4

SCENE 2

言語聴覚士との絵カード訓練
コミュニケーション能力を高める

絵カード訓練とは、景物など印刷されたカードを見せ、名称を答えてもらったり、既に書かれたカードの名称を指さし、該当する絵カードを選んでもらったりする訓練です。



この日、週1回は行われている絵カード訓練に参加されたのは、T君とS君のおふたり。おふたりとも順調に歩みを進め、時には「でけりっころりっ」音がする「へんあひな」などと、笑いあえるシーンも。

担当していた言語聴覚士・藤井さんが、訓練に興味を持って取り組んでくださるよう積極的に話しがけられたり、おふたりを促し上手に楽しみながら絵カードに答えたり、話を楽しんでいた様子でした。

「Voice」

スムーズなコミュニケーションはストレスも緩和させます

言語の理解・表現が困難な状態は、言葉の通じにくい状態になる可能性があります。絵カード訓練によるスムーズなコミュニケーションの実現は、そうしたストレスの緩和にもつながります。

また、絵カード訓練を通じて、物の名前を言葉で言い、言葉と物とを結びつけることで、言葉の理解力に合わせた表現練習にもつながります。言葉の理解と表現の両方を同時に鍛えることができます。

藤井 有香
言語聴覚士
大宮ケアホーム



P.5

P.6

SCENE 4

肌の活性化にも安心感にもつながる
肌と肌をふれ合わせるハンドマッサージ



月に1回は行われているハンドマッサージの業務内容は、両手で約5分、まず両手の手首からでんぐり返し、両腕を伸ばします。そして、アロマオイルを手から手まで広げながら、両手を握ります。握りも1本ずつ1回にマッサージします。

「Voice」

1対1で心を通わせられる貴重な時間にもなっています

ハンドマッサージのやり方は、約4年前に、この会の専業主婦の専業主婦が担当しました。現在は、4名の職員が「ハンドマッサージ」の認定資格を取得し、業務を行っています。

両手を握ることで、手の温度が上がることで、肌の活性化も促されるだけでなく、握りあうことで安心感も得られるパズルになっています。



手や腕をじっくりマッサージしてもらっているO君は、神経がツツとした表情。介護士・職員13人からの思いやりも、「気持ちよえなあ」と満面の笑みで返されます。

職員さんには、最初は嫌がる方も、15分のマッサージにははるかに慣れた様子が見られるようになった。介護士さんだけでなく、利用者さんからも、「ありがたう」と言われることが多くなりました。



樋口 依江子
介護士
大宮ケアホーム

【特集】日々のリハビリ風景



週に1回、20分ほどかけて園内を回る公園散歩。多くの利用者様が、おはしゃぎ、笑いながら歩いたり、おはしゃぎながらお散歩の楽しさを話されています。

自然の中で開放感を味わえる上、隣同士が支え合いながら歩けるのが、散歩の醍醐味です。普段、室内で過ごしている利用者様の気持ちも自然とほぐれていき、自然と笑顔が溢れるのが、散歩の醍醐味です。

SCENE 3

五感を刺激し、表情もやわらげてくれる隣接する公園でのお散歩

「Voice」

都会の真ん中にある公園は、最高のリハビリツールです

都会にある公園は、自然が豊かであることが多く、散歩の醍醐味です。自然の中で過ごすことは、五感を刺激し、表情もやわらげてくれる。自然と笑顔が溢れるのが、散歩の醍醐味です。

金岡 室知
介護士
大宮ケアホーム



いつも、愛用の手押し車で公園に出かけるO君も、公園散歩を楽しんでいる様子です。理学療法士・金岡さんと付き添いながら、ゆっくりと公園を歩きます。

笑顔に限らず、その利用者様も、会館から帰ってくるまでずっとおしゃべりしています。散歩する公園での散歩が、愛用車は手押し車やコミュニケーションの時間を提供してあげています。

【特集】日々のリハビリ風景

INFORMATION from 浩治会

SDGsの目標達成に向けた取り組みを始めました

医療法人浩治会は、創設当初より地域社会を幸せにすることを目的とした福祉事業の展開に注力し、さまざまな福祉問題や社会問題と向き合ってきました。

創設以来30年、当法人が続けてきた福祉事業とSDGsの目標は親和性が高いことから、2030年までのSDGsの目標達成に向け、本年よりいくつかの取り組みを開始したのでご紹介いたします。

#1 募金自動販売機の設置

本年より、当法人の施設に募金自動販売機を設置しました。飲料1本ご購入いただくごとに、価格の10%が「非特定公益活動法人 国際連合世界食糧計画(WFP)協会」または「日本国際救済財団」に寄付される仕組みになっています。この自動販売機の設置を通じて、人海支援に協力させていただいております。

#2 ペットボトルキャップでワクチン支援

本年より、当法人の施設にペットボトルキャップの回収機を設置しました。回収されたペットボトルキャップは「NPO法人児童の子どものためにワクチン日本委員会(京V)」に寄付されます。集められたキャップは、JCVがワクチン資源として活用。その売却益が開発途上国の子どもたちにワクチンを届け、子どもたちの未来を守る活動「子どもワクチン支援」を行っています。

#3 フードドライブ

毎年3月、食品ロス削減を目的に、当法人内で余った飲料を大賑わい無償提供する取り組みを行っています。

■ 編集後記

「Delight」創刊号の編集に携わりました相田と申します。普段は大宮ケアホームで業務を担当しております。今回のテーマは「リハビリ」なので、利用者様や職員の取材を求めさせていただいた。新しい発見や貴重な気づきも多くいただき、改めて自分自身も成長しました。ただ、取材するだけでなく、企画や制作を通じて、利用者様とのコミュニケーションや信頼関係を築くことも、一生懸命取り組んでいる職員には感謝しております。

「Delight」では今後もさまざまな角度から浩治会を取材していきますので、お手に取っていただいた皆様には、ぜひまたご期待いただければ幸いです。

相田 大地
医療法人浩治会
(大宮ケアホーム)

制作 DATA

- 仕様：A4 / 8 ページ / フルカラー
- 種類：広報誌（創刊号 / 年 2 回の発行予定）
- 事業内容：介護老人保健施設の運営・訪問介護などの提供、ほか
- 制作目的：グループ内 4 施設の周知、およびお問い合わせの増加
- 配布対象：デイケア、および老健（短期）ご利用者様、ほか
- 配布方法：主に手渡し、各施設内にも設置
- 制作期間：約 3 か月半
- 作業内容：ヒアリング / 企画 / インタビュー取材 / ライティング
・リライト / 写真撮影 / レイアウト構成 / デザイン
/ 印刷手配 / 進行管理

制作の経緯

- 【背景】 浩治会様はグループ内に、介護老人保険施設や介護付き有料老人ホームなど 4 つの施設を運営されているものの、各施設の利用者様のご家族や、他施設のデイケアご利用者様のご家族などには周知が行き渡っていないという現状がありました。
- 【ご要望】 新たに広報誌を創刊することで、グループ内の 4 施設の取り組みや各施設の雰囲気、スタッフからのメッセージなどをお届けし、施設選びの参考にしてもらいたいというご要望でした。
さらに誌面デザインは、スタイリッシュで高級感のあるイメージで作
り、法人全体のブランディングにもつなげたいご意向でした。
- 【ご提案】 創刊号ということもあり、一冊の企画内容やページ構成などからご提案。特に重要な広報誌のタイトルは 4 案をご提案し、選んでいただきました。
さらに、冊子の顔となる表紙案も計 5 案、制作して選んでいただきました（次ページに添付）。
また、「高級感」を重視されていたことから、通常のコート紙やマット紙ではなく、高価格なファインペーパー（ヴァンヌーボー）をご提案。
企画・タイトル案・紙質ともに、スムーズにご決定いただき、介護施設の広報誌としてはデザイン的にも、仕様のにも、他とは違ったテイストの一冊に仕上がりました。

【デザイン】 デザインは、白を基調にした余白が多めのレイアウトとするため、写真は明るめに、大きめに、そして文章は少なめにして配置。それら写真や文章などのコンテンツは、広い余白を活かしてページごとにランダムにレイアウトすることで、誌面の中で動きをつくり、同じトーンでありながら飽きのこないデザインを意識しました。

【ご提案した表紙案の別案】

